

## 2. 実践研究のねらい

今日的な教育課題である「学校の再編統合」が計画されている地域において学校運営協議会の制度を生かした地域のモデルを構築することを推進していく。勝沼・大和地域内の単なる2つの中学校の集合体ではなく、新たな共同体として、有効に機能させることによって教育効果が高めたい。その結果、それぞれの学区を合わせた地区・地域から信頼される学校づくりを目指す。また、統合をスムーズに進め、統合された地域のそれぞれの特色を生かしつつ、新たな学校づくりに向け、保護者・教師・住民が一体となり、提案型の協働組織である「勝沼・大和コミュニティ・スクール推進委員会」の設置及びその有効活用についての次の3つの研究・検討を行う。1つ目として、統合後の学校が新たな学区の地域コミュニティの核として高い教育機能を発揮するための方策に関する研究を行う。2つ目は学校運営システムの抜本的改革に関する研究をすることによって、既存の組織を発展的に、学校運営協議会へと移行させ、7つの小中学校の集合体から7つの学校の共同体となるコミュニティ・スクールの導入を目指し、学校を地域が支える体制の維持・向上を図る。3つ目は統合を契機とした魅力的な学校づくりに関する先進的な取組として、統廃合に向けての円滑な生徒交流と相互理解の推進を図り、勝沼地区の果樹栽培や武田氏終焉の地としての大和地区の歴史など、地域のよさや伝統・文化等を共有し実感できるカリキュラムを開発して実施する。このことによって、互いに違う地域や学校で過ごしてきた経験を、学習へのモチベーションやコミュニケーションの高まりにつなげ、地域を題材とした学習を通して、児童生徒が主体的に関わり、互いに伝え合い、学び合うことの楽しさを実感できる教育活動づくりを目指す。